

Ⅳ-174

東京とロンドンの都市と経済の比較

東京急行電鉄 正会員 太田雅文

1 はじめに

特に1980年代後半から顕著になった経済のグローバル化の中、ニューヨーク、ロンドン、東京、パリ、香港等は「世界都市(World City)」と呼ばれるようになった。これらの特色は金融をはじめとする多国籍企業のコントロール機能が集中して立地している大都市圏を持つことにある。似たような特色を持つ都市同士を見比べることは都市地域計画策定の際の基礎的理解度を深める有効な手法であると考えられるが、国際間にまたがる都市比較研究事例はまだ数少ない¹⁾。本研究では「世界都市」の中でも東京とロンドンの都市圏に焦点を当て、人口と経済活動の立地パターンの相違を確認することを目的とする。

2 研究対象地域

表1 研究対象地域と面積（平方キロ）

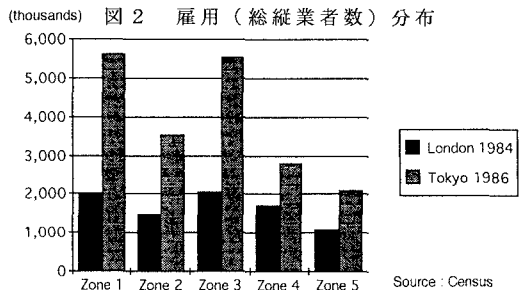
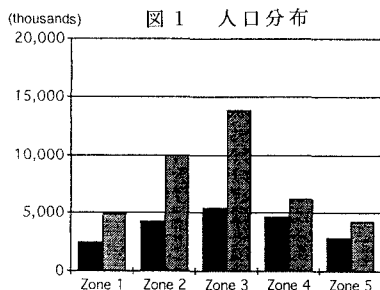
研究対象地域はそれぞれ都心から半径約100マイル(160km)の地域。東京は関東地方全域と山梨、静岡県。ロンドンはイングランド南東地域全域と周辺のカウンティとした。（表1）

東京			ロンドン	
ゾーン1	東西の6区を除く東京23区域	323	インナーロンドン	321
ゾーン2	区および川崎、浦和、船橋等周辺市	1,327	アウターロンドン	1,259
ゾーン3	その他1都3県	11,819	アウターメトロポリタンエリア	9,683
ゾーン4	茨城県、栃木県、群馬県	18,864	アウターサウスイースト	15,959
ゾーン5	山梨県、静岡県	12,244	周辺5カウンティ	15,707

3 人口と雇用の分布パターンの違い

国勢調査の結果より人口分布パターンの違いを両都市で比較すると、特にゾーン2と3で東京の人口集積の密度がロンドンと比較して高い（図1）。その外側のゾーン4と5での両都市の差はさ程ではないことより、言葉を換えればロンドンは東京と比較して分散型の地域構造をしていると読み取ることもできよう。雇用統計、事業所統計より得られる総雇用数（総従業員数）においても同様のことが言え、特にゾーン1、2、3で東京の都市密度の高さが際立っているのに対して、ゾーン4と5での差は小さい（図2）。

「分散型のロンドン」に対して「集中型の東京」。この元々あった地域構造は、特に1980年代後半に顕著となった両都市の成長に合わせて強められることになった。1980-90の10年間人口成長率の最高値は東京でゾーン3(16.9%)、次いでゾーン2(10.7%)であったのに対して、ロンドンでは1981-91間で最高値がゾーン5(8.6%)、次いでゾーン4(5.8%)であった。また雇用についても同様の傾向が観察でき、分散型のロンドンでさらに分散が促進され、集中型の東京ではさらに集中が加速された。



3 経済構造の違い

ここではロンドンと東京の経済構造の違いを業種別雇用（従業者数）の地理的分布を捉えることにより評価する。英国の雇用統計と日本の事業所統計を比較する際問題となるのは標準産業分類1桁コードの業種が異なることにある。例えば日本の分類の「サービス業」という業種は英国には存在せず、金融、保険、不動産、対事業所支援型サービスより成る通称「FBS: Financial and Business Services」と医療、教育、公務等を含む「その他サービス」の2業種が存在する。本研究では英国基準に基づく1桁コード10分類に日本基準のデータを合わせるために、事業所統計の業種別従業者数を2桁コードまで廻り、組み換えることにより比較を行った。

図3に示す対象地域全体の業種別雇用の比較より明らかなように、ロンドンと比較した東京の特色は商業（Distribution: 卸売業、小売業、飲食店、ホテル）従事者が多いことにある。しかしこの単純な「数の比較」の問題として、国の経済構造の特色が地域経済構造評価に強く反映されてしまっているという点が指摘されなければならないだろう。国の構造的影響を取り除くためには以下に定義されるLQ（Location Quotient）も見なければならない。

$$LQ = (i\text{地域の}j\text{産業の雇用} / i\text{地域の総雇用}) / (全国のj\text{産業の雇用} / 全国の総雇用)$$

図4より明らかなように、東京とロンドンの商業におけるLQに大きな差はない。商業（特に卸売業）の雇用の多さは東京というより日本の経済構造の特色と言える。

東京とロンドンの経済構造の共通した特色としてFBSへの特化が進んでいるということが指摘できる。この業種はオフィスを活動の基盤とする業種であって、LQは東京で1.21、ロンドンで1.36と高い。両都市の違いはサービス系の業種と製造業系の業種への依存度のバランスに顕著に現れる。東京と比較してロンドンの都市経済はサービス系業種への特化度が高く、逆に東京では製造業系業種、特に機械、自動車、電機、コンピューター等ハイテク産業を含むEngineering, etc.のLQ値が1.20と高い。

「サービス型のロンドン」に対して「バランス型の東京」。この経済構造に関する特色は1980年代の後半にやはり強められた。両都市ともこの時期FBSの大幅な雇用増があった点では共通しているが、製造業系業種の雇用減が東京と比較してロンドンで著しい。

4 おわりに

本研究では2つの「世界都市」東京とロンドンに焦点を当て、その構造比較を行った。都市圏を同心円状に分け、人口と雇用の分布と増減を見ることにより、東京の経済構造がロンドンと比較して製造業系とサービス業系のバランスが取れているものの、より「集中型」の地域構造をしていることが確認された。

注(1) 例えば、Sassen, S., 1991, "The Global City"

図3 業種別雇用

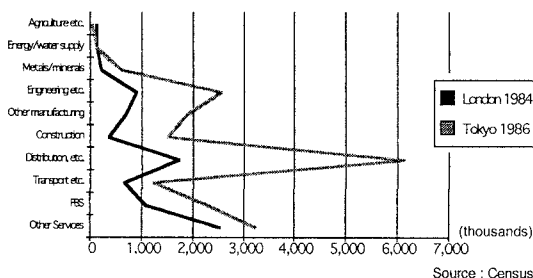


図4 業種別LQ

